

## 令和 6（2024）年度 資源評価調査状況報告書（拡大種）

### モロトゲアカエビ日本海北中部

|      |        |       |  |
|------|--------|-------|--|
| 対象水域 | 日本海北中部 | 参画機関名 | 水産研究・教育機構 水産資源研究所<br>底魚資源部、青森県産業技術センター<br>水産総合研究所、秋田県水産振興センター、<br>山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、<br>富山県農林水産総合技術センター水産研究所、<br>石川県水産総合センター |
|------|--------|-------|--|

- ・ 令和 4 年度資源評価調査報告書を公表済み（[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report\\_2022\\_187.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_187.pdf)）、次回令和 8 年度を予定

#### (1) 調査の概要

- ・ 機構は生物情報収集調査と各県漁獲情報の集約を実施
- ・ 各県は漁獲統計調査を実施
- ・ 本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

#### (2) データ収集状況

- ・ 青森県では日本海主要21港の2007年以降の漁獲量を集計済み（\*1）
  - ・ 秋田県では2004年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
  - ・ 山形県では2021年以降の月別漁法別漁獲量（トヤマエビが主体の「シマエビ」として）を収集済み
  - ・ 新潟県では2021年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
  - ・ 富山県では2021年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
  - ・ 石川県では主要10港の2012年以降の月別漁法別漁獲量を収集済み
  - ・ 機構は、各県機関が収集した集計値の整理、2022年1月以降の沖合底びき網漁獲成績報告書から、努力量や資源量指標値に関する情報を収集中
- \*1：21港のうち岩崎および小泊のかごでのみ漁獲量が記録されている（他種が含まれている可能ある）

#### (3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和 4 年度資源評価調査報告書を参照（[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report\\_2022\\_187.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2023/03/report_2022_187.pdf)）
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

海域全体での漁獲量集計値としても 10 トン前後と少なく、トヤマエビ等他の他種が含まれて過大となっている地域や一部の漁法の集計で過小となっている地域などがある。

漁業では混獲による水揚げがほとんどであるため、調査船データによる指標値の探索も必要。